



市長と

車座トーク

第44回 赤坂学区（概要）



開催日時 2017年(平成29年)11月16日(木)

19:30~20:30

開催場所 赤坂公民館

参加者数 9人

次第 市長のあいさつ

意見交換

地域からのまとめのあいさつ



<車座トークでの主なご意見>

- ・ JR備後赤坂駅北西側の滑石踏切付近では、通勤・通学の時間帯において、生徒、通勤者と送迎用の車とが集中するため、交通事故の発生が非常に心配される状況になっている。これを解消するためには、同駅に南口を新設するとともに、そこへの進入路を整備していただき、人と車との流れを同駅の北側と南側に分散させる以外に方法がないのではないかと懸念される。同駅の南側地区では道路の整備が遅れており、土地利用は停滞していたが、近年、分譲住宅の建築や太陽光発電設備の設置などが進んでいるため、今後さらに道路や駅前広場などの整備が難しくなってくることが懸念される。
- ・ JR備後赤坂駅東の道路は道幅が狭く、人や自転車、バイクが通るが交通事故が心配される。過去に女学生が襲われる事件もあった。同駅東の道路を拡張して安全に通行できるようにしていただきたい。
- ・ JR備後赤坂駅で車から電車に乗り換えてもらうためには、駐車場が足りない。休耕地を利用して駐車場にしてはどうだろうか。温暖化対策の観点からもJR備後赤坂駅を利用していただきたい。
- ・ 赤坂では、『本の読み聞かせボランティア』を継続して実施している。どこも読み聞かせは実施して

いるが、地元の保育所・小学校・中学校を組織的にやっているのはあまりないということだった。この『読み聞かせボランティア』を全市的に組織化出来たらと思う。また、ネウボラの「子育て支援」と本の読み聞かせによる「情操教育」の二本立てが出来たら良い。全市的な組織作りに力をお借りしたいのと、ボランティアの研修の場の設置と、本の読み手確保のため、退職された先生方や老人大学の生徒などへの呼びかけをお願いしたい。

- ・赤坂学区では、現在は児童数が確保できているが、全体的に今後は児童数が減少する傾向がある。市街化調整区域のため家が建てられない、大人になって赤坂に住みたくても住めないという実態があるので、市街化調整区域でも家が建てられる環境を整えていただきたい。
- ・子ども時代の豊かな読書体験が人を作る。PTAも図書の実施には力を注いでいるが、足りないのが現状。子どもたちに読書の面白さ、本によって学ぶことの楽しさを教えるため、そして自分の手で未来を切り拓いていく力をつけてもらうために必要な図書の予算措置をお願いしたい。
- ・中学校給食が昨年より試験的に行われ、広がりつつあるが、済美中学校での実施するための条件などを教えていただきたいのと、実際にいつ頃実施可能なのかが知りたい。
- ・放課後児童クラブについては、基本的に小学校3年生までの利用が可能だが、核家族化が進んでいるためか、小学校4年生になってからの子どもの預け先がなくて困っている。市内の何校かでは4年生以降も利用可能になっているところもあると聞く。対象校となることは難しいか。
- ・赤坂学区では今年度より、4年生以上の子どもたちの学習をサポートする“放課後チャレンジ教室”が始まった。開設にあたり福祉を高める会がボランティアを集めたのだが、教育委員会から説明を受けたのは新年度になってから。もう少し丁寧な説明と準備期間が欲しかった。子どものため、より良い教室となるよう、ボランティアから意見が出ており、学校・ボランティアと密に連携を取っていただきたい。また、ボランティアへの研修会も実施していただきたい。
- ・赤坂町は、山陽新幹線、山陽本線、山陽道、国道2号線が通るまちであり、福山市のベッドタウンになれば良いと考えている。学校の集まる学園都市のような町ではあるが、大きな施設がないので図書館を建設し老人が集う部屋も併設すれば、みんな仲良く勉学に励むことが出来る場所になると思う。
- ・ふれ愛ランドのグラウンドは、サッカー・野球・グラウンドゴルフ等でよく利用されている。最近では、多くの高齢者がグラウンドの外周を歩いている。外周をただ歩くだけでなく、ちょっとした運動が出来るように運動器具を設置すれば健康人口を増やしていけると思う。
- ・赤坂小学校の体育館をよく利用しているが、床が白け、ワックスも効かない状態で滑りやすくなっている。すぐには難しいかもしれないが、手入れをしていただくなりワックスをかけるなりしてほしい。また、水銀灯が度々切れるので、LED照明を導入していただきたい。
- ・フードバンク活動をしている。NPO法人の力だけでは需要と供給のバランスが上手く取れないという実態がある。市の関係課や社会福祉協議会と一緒に効率的な活動方法を考える場をもたせていただきたい。
- ・公共施設の洋式トイレは数が少ないと思う。子どもや高齢者の方に、公共施設でトイレの利用に不便と困難を感じておられる方が大勢おられるので、早めにトイレの洋式化を進めていただけたらと思う。

<市長のまとめ>

- ・JR備後赤坂駅の南側地区は、今後の発展可能性のあるエリアだと思っている。人口が減ってくる時

に無秩序に施設を造ってしまうとまちづくりが上手くいかないのです、立地適正化計画というのを作っている。今後、住居を誘導するエリア、都市機能を誘導するエリアなど、色分けをしながらまちを再構築していく必要がある。おそらくこの赤坂エリアは住居や町の機能を集めていく地域になっていくだろうと思っている。

- ・赤坂の、あるいはJR備後赤坂駅の南側のまちづくりについては、どうしていくのか、どう有効活用していくのかを地元と行政とが一緒になって議論する場が必要。同駅南口だけではなく、どういう形で利用し、このエリアを皆で変えていくか、合意形成のための議論が出来れば良いと思っている。また、私たちもJRに同駅南口改札設置を強く働きかけていきたいと思っている。ぜひ、地域のみなさん方もJRの方へ要望を直接伝えていただくような取組をしていただければと思う。
- ・JR備後赤坂駅東側の歩道については、防犯のための取組が必要であれば、そこは地元の人で協力をして、特定の時間帯だけでも安全に通行が出来るようにしてもらおう取組が必要かもしれない。人が通るための歩道を拡幅することに優先的に予算を振り替えることは中々難しい。
- ・駐車場の問題については、JR備後赤坂駅南側を全体として、どのように秩序ある開発につなげていくかという議論がないままに、駐車場だけがポツポツと出来ると、一体的な開発にとって逆効果になるかもしれない。改めて同駅南側の将来の在り方を考える場が必要だと思った。
- ・福山ネウボラと本の読み聞かせとを一緒にして、福山ネウボラをもっと特徴的なものにするご提案をいただいた。「本」と「育児」ということは母子の精神的な安定にも繋がると思っている。赤坂の例を参考に全市で保育所・小学校・中学校一環でそうした習慣が定着できるよう考えてみたい。それから研修については、東部支所で読み聞かせボランティアの研修をやっているのだから、これを西部(松永)で研修の場ができるよう相談をしてみる。次に担い手については、老人大学や退職された教員に参加してもらえるよう早速声をかけてみる。
- ・市街化調整区域を弾力的に運用するため、市で議論している。これからは人口が減少していくので、住むべき所とそうではない所をはっきりと分けながら、まちづくりを再構築していかないと将来的に非効率なまちになってしまうという所に注意をしないといけない。町全体の開発がうまく溶け込むような議論をこれからしていきたいと思っている。
- ・図書館の充実は、本当に必要なことだと思う。ただ、これは赤坂学区だけではなくて、市内の全学区も同じ思いなので、皆さんが納得のいく平等なやり方をしていかななくてはいけない。児童数が少ないとどうしても図書館が不足するということになる。考えられる方策の一つとしては、寄付を申し出てくださいました方に「図書館が不足している」と言う話をする。そうすれば、学区に何冊かずつでも図書館が配られるということに繋がっていく。寄付で図書館をとということもこれから考えていきたい。
- ・中学校給食については、中学校全校完全実施とういことを市民の皆さんにお約束をさせていただいている。段階的に全校でやっていくための全体計画をお示しするので、もう少しだけお待ちいただきたい。ご家庭の協力と中学校給食とで子育てをサポートしていきたいと思っている。
- ・放課後児童クラブの対象年齢を小学6年生まで引き上げることについては、2019年度末までに実施したいという計画を立てている。ただ、児童数が増えると担当の支援員を増やさないといけない。場所の確保は、地元で協力していただくことによって可能になると思う。課題を乗り越えながら2019年度末までに進めていく。
- ・放課後チャレンジ教室では、連携不足で大変ご迷惑をかけてしまい、改めて地域のチャレンジ教室に

関わっていただいた方にお詫びし、これからはこんなことがないように連携していきたいと思っている。研修の必要性についても、改めて教育委員会へ伝える。また、「こういうことを教えてくれ」とか「こういう情報が欲しい」とかがあれば、何でも言っていただける体制や雰囲気作りをしたいと思う。

- ・図書館建設については、それぞれの世代が楽しめる施設が整備されていれば良いと思うが、残念ながらこれからの時代を考えると今ある施設をどう効率的に使うか、施設をどう減らして新しい時代に合った機能にふさわしい建物に変えていくかを考えていくものだと思う。そういう意味で図書館建設の構想は、すばらしい夢として受け止めさせていただければありがたい。
- ・ふれ愛ランド外周の安全な場所に健康器具をつくることについては、これからの時代あっても良いと思う。青少年課が担当になるので、ご意見を青少年課に伝える。また相談してもらいたい。
- ・小学校体育館の床が滑りやすいというご意見については、状況を確認した上で、どのようなタイミングで取り組めるか考えていきたい。また照明については、水銀灯が切れた時には、切れた所から次は耐用年数の長いLED照明に切り替える取組をしている。工夫しながらやらしていただきたいと思う。
- ・フードバンク活動については、行政が何らかの役割を果たして、フードロスの発生側と、それを必要としている側を結び付ける、相談の場、議論の場、意思疎通の場を作らせていただきたい。
- ・公共施設のトイレの洋式化について、一番心を痛めているのは小学校、中学校の洋式トイレ化の遅れ。しかし、放置している訳ではなく、少しずつ進めていきたいと思っている。学校ではその前に耐震化も遅れている。命に関わることなので、そういうものを優先的に進めたい。その次がトイレの問題。学校だけでなく、その他の公共施設についても、洋式化の対応をしていきたいと思っている。

<地域からのあいさつ>

本日はご多用の中、車座トークを開催いただきましてありがとうございました。

学区についての願いを多くさせていただきましたが、それらに対して市長からも直接お話を伺うことができ、大変有意義な会議になったものと思います。学区内の様々な課題については、将来的な解決に向け、ここに参加いただいている各団体の役員などが中心となって取り組んでいますが、市・行政のご支援をいただかないといけないことも多くあるかと思えます。引き続きよろしく申し上げます。

なお、これからも私たちが住む町を「明るく住みやすい町」にしていくために、学区の皆が考え行動していきたいと思えますので、今後ともよろしく願いいたします。